



専門医のための水電解質異常診断と治療

塚本雄介著. -- 東京医学社, 2018.

ISBN: 9784885632969

REVIEWER

医学部 医学科 5回生

分かりやすくはない、しかし微に入り細を穿つ

本書はタイトルからも分かるように、ある程度電解質や腎臓機能についての知識を持った者向けに書かれている。序文でも、『「初心者にも分かりやすい」というコンサイスな内容は目指していない』と言い切っている。少なくとも完全な初心者の状態で本書に挑むのはハードルが極めて高いと言わざるをえない。

しかしながらただ単に分かりにくいだけの書籍には終わっていない。当然のことながらKやNaのみならずMgやPiについて全てのトランスポーターを網羅している。薬剤性の電解質異常については単に薬剤A→症状、と羅列するのではなく、介在する機序にまで立ち入る。遺伝性疾患であれば異常な輸送体や遺伝子にまで具体的に言及する。Caであれば骨代謝にまで踏み込む。利尿薬の使い分けや各種検査法にまで言及する。と、ふと疑問に思ふようなポイントを押さえており、痒い所に手が届く内容になっていて辞書的に使える。そして一つ注意点として挙げたいのが、本書は腎臓内科だけを読者として想定しているわけではなく、救急、麻酔、内分泌、総合診療、ER/ICUの各科専門医をも読者として想定している。

(裏へ続きます)

493

12

Ts 54

医図開架

⇒⇒⇒

また本書を出色の出来たらしめている要素の一つが「なぜペンギンの足は凍傷にならないのか？」というコラムである。これによってネフロンがなぜああもややこしい構造を取るのかを感覚的に理解できるようになっている。ペンギンの足と水電解質とがどのように繋がるのかは本書を実際に手に取って確かめてほしい。この「ペンギンコラム」のようなコラム・トリビアも見所の一つとなっており、難解な内容の理解の大きな助けとなっている。

こも内容が盛り沢山だとあたかも辞書のような装いを想像するかもしれないが、実は索引含めても186ページという「コンパクト」な内容となっている。確かに通読するのは骨が折れるが、べらぼうに時間のかかるというものではない。

通読すれば確実に水電解質についての理解が一層深まる一冊である。

受理：2019-03-11